聖路加国際病院麻酔科専門研修プログラム

1. 専門医制度の理念と専門医の使命

① 麻酔科専門医制度の理念

麻酔科専門医制度は，周術期の患者の生体管理を中心としながら，救急医療や集中治療における生体管理，種々の疾病および手術を起因とする疼痛・緩和医療などの領域において，患者の命を守り，安全で快適な医療を提供できる麻酔科専門医を育成することで，国民の健康・福祉の増進に貢献する.

② 麻酔科専門医の使命

麻酔科学とは，人間が生存し続けるために必要な呼吸器・循環器等の諸条件を整え，生体の侵襲行為である手術が可能なように管理する生体管理医学である．麻酔科専門医は，国民が安心して手術を受けられるように，手術中の麻酔管理のみならず，術前・術中・術後の患者の全身状態を良好に維持・管理するために細心の注意を払って診療を行う，患者の安全の最後の砦となる全身管理のスペシャリストである．同時に，関連分野である集中治療や緩和医療，ペインクリニック，救急医療の分野でも，生体管理学の知識と患者の全身管理の技能を生かし，国民のニーズに応じた高度医療を安全に提供する役割を担う.

2. 専門研修プログラムの概要と特徴

麻酔科専門研修に必要な要素は、臨床、教育、研究の三本柱である。基幹施設である聖路加国際病院を中心とし、複数の連携施設において、麻酔科のプロフェッショナルを目指した研修を提供している。更に、当院は 2012 年に Joint Commission International 認定を取得し、現在もその審査基準に沿った世界水準の診療を行っている。

＜基幹施設（聖路加国際病院）について＞

【臨床】

年間麻酔科管理症例数は、2010 年の 4500 症例から 2024 年に 6616 症例と増加傾向にあり、その症例数は大学病院に匹敵する。３次救急対応の救命救急センターからの症例、先進的医療、心臓大血管（MICS、ロボット弁形成手術）、小児、胸部外科、脳神経外科、産科麻酔、無痛分娩、術後疼痛管理（Acute Pain Service）、合併症症例（妊娠合併非産科手術、先天性心疾患合併患者の非心臓手術や分娩など）、神経ブロ

ック症例、ペインクリニック、手術室外での鎮静業務など幅広い症例が経験できる。内科的合併症を抱える患者の増加に対応して、集中治療を含めた周術期管理を体得できる。新生児から超高齢者までと患者はバリエーションに富んでいる。さらに、専門医取得に必要な症例は 4 年間の研修のうちにすべて聖路加国際病院で経験することが可能である。

1. 心臓血管外科麻酔

心臓血管外科麻酔は年間 200 症例前後であり、日本心臓血管麻酔専門医認定施設である。現在、日本心臓血管麻酔専門医は 3 人、JB-POT 合格者複数が在籍し、手厚い心臓麻酔の指導が受ける事ができる。心臓外科医はロボット支援の MICS を含む、大血管、弁置換、弁形成、オフポンプバイパス、経皮的大動脈弁置換術(TAVI)、成人先天心修復術など多岐にわたる心臓手術をほぼ毎日行い、更には夜間や週末などに緊急手術も行っている。麻酔科専攻医は複雑な症例の手術期の経食道超音波検査の技術も含め心臓麻酔に必要な研修を経験豊富な指導医より受けられる。

2. 産科麻酔

産科麻酔は、帝王切開と無痛分娩の知識・技術を身に付けられる。2016 年より新たに産科専用の手術室がオープンした。産科病棟（分娩室）には麻酔科医が常駐し、2021 年度は総分娩数 1610 件、帝王切開 552 件、硬膜外無痛分娩 1005 件と産科医療に積極的に介入し、産科麻酔を産科生理から理解を深め研修する事ができる。また、循環器疾患合併妊娠等、リスクの高い産科麻酔を経験、習得する事ができる稀な環境といえる。

3. 小児麻酔

小児麻酔の経験豊富な部長のもと、小児外科、形成外科、耳鼻科、整形外科、脳神経外科の小児疾患の麻酔をマンツーマンでの指導が受けられる。

4. 脳神経外科麻酔

2015 年より神経血管治療に特化したハイブリッド手術室が稼働している。くも膜下出血などの緊急開頭術も多く、麻酔科専門医に取得に必要な症例は他院で研修することなく、経験することができる。

5. シミュレーション

2016 年より、併設のシミュレーションセンターが開設され、病院環境を再現した学習支援設備が利用できる。特に模擬手術室は８ｘ８ｍの大きさで、医療ガス配管や麻酔器、高機能マネキンなども整った本格的な設備であり、麻酔科に限らず複数の診療科や職種での利用が見込まれる。シミュレーションセンターで教育支援業務を行う部署であるシミュレーション教育部の担当者は当科麻酔科医で、米国で同分野でのフェローシップおよび研究に従事した者である。教育のための設備・体制が整い、良質のシミュレーション教育を受けることができる。

6.　　区域麻酔（硬膜外麻酔や超音波ガイド下神経ブロック）

硬膜外麻酔や脊椎麻酔は産科麻酔のみならず、一般麻酔でも行っており、経験症例の確保に努めている。超音波ガイド下神経ブロックを積極的に取り入れ入れている。四肢のみならず、体幹の術後疼痛にも取り組んでいる。日本区域麻酔学会指導医や認定試験合格者やペインクリニックでの経験が豊富な医師も在籍しており、最先端の指導を受けることができる。毎年、初級者向けのシミュレーターを用いた硬膜外、脊椎麻酔のハンズオンセミナー、外部講師を招聘し最新の神経ブロックセミナーも開催しさらなる技術向上を図っている。

7.　　ペインクリニック

2022 年より院内の患者さんを対象にペインクリニックを開設しており、帯状疱疹後神経痛や術後の慢性痛患者さんを対象に治療を行っている。ローテーション中に希望者は担当することができる。

8.　　Joint Commission International(JCI)

世界基準の病院評価である Joint Commission International(JCI)基準に準拠し、院内各部門の鎮静管理を実践している。

【教育】
専攻医を対象に毎週、医局内で心臓麻酔レクチャー、産科麻酔レクチャー、症例検討会と抄読会を行い、フィードバックを得ることで貴重な症例を基本から学ぶ教育システムを用いている。
在籍指導医からの熱い指導を受け、海外・国内の学会で発表の機会もある。

【研究】
臨床研究（場合により基礎研究）を活発に行っている。

【その他】

勤務体制：
日勤での麻酔は指導医と一緒に麻酔を行う。
専門医と専攻医の２−３人体制による当直で、夜間の緊急時は直接上級医からの指導を受けながら症例経験を積むことができる（月４回程度)。
当直明けは帰宅できるため体力を温存でき十分な勉強時間が得られる。

医局の雰囲気：
若い医師の成長を医局の皆で喜ぶアットホームな温かい環境である。外科、内科を含め、各科との垣根は低く協力や相談など気軽にできる環境である。

1. 専門研修プログラムの基本運営方針

聖路加国際病院での研修の他に、小児病院での６ヶ月のローテーション、関連大学病院での６ヶ月の研修、産科麻酔研修３ヶ月のローテーションは必須とする。その他ICUやペイン、頭頸部、地域など３ヶ月の研修を希望により行う。

- １年目は，基本的に専門研修基幹施設で研修を行う。（人数に伴い、半年後より他施設での研修を開始することもある。）
- ２年目に小児麻酔研修のために、関連小児病院（都立小児医療センター、国立成育医療センター）での研修（６ヶ月）と関連大学病院（東京女子医科大学病院など）で研修（６ヶ月）を行う。（必須）
- 産科麻酔研修のため、３ヶ月間順天堂大学で研修を行う。（状況による）
- 集中治療の研修のため、３ヶ月−１年（必須）聖路加国際病院集中治療科で研修を行う。
- ペインクリニック研修のため、３ヶ月間順天堂大学で研修を行う。（希望者のみ）
- 地域医療及び地域の中核病院で少ない医療資源の中での研修のため、沖縄県中頭病院での研修を行う（３ヶ月から６ヶ月、希望者のみ）
- 地域医療の研修のため，中頭病院などの非シーリング地域での研修が必要となる。（３ヶ月〜１年、麻酔科学会の方針による。）。
- 頭頸部手術や食道がん手術などの症例を経験するため、国立がんセンター東病院での研修を行う（希望による、３ヶ月〜６ヶ月）。
- 将来のサブスペシャリティとしての心臓麻酔研修のため、６ヶ月ニューハートワタナベ国際病院や榊原記念病院での研修を行う。（希望者のみ）
- 研修内容・進行状況に配慮して，プログラムに所属する全ての専攻医が経験目標に必要な特殊麻酔症例数を達成できるようローテーションを構築する.

- 国内・国際学会での発表や論文作成を指導する。
- 本人の希望・評価・資格に応じて、留学のサポートもおこなっている。
- 研修中の評価や研修期間の休止期間によっては、研修管理委員会での審査の上研修期間の延長もあり得る。

研修実施計画例

年間ローテーション表　例

	1年目	2年目	3年目	4年目
A	聖路加国際病院　麻酔科	東京女子医科大学麻酔科（6ヶ月） 東京都立小児医療センター（6ヶ月）	聖路加国際病院 麻酔科（9ヶ月） 順天堂大学麻酔科 産科麻酔研修（3ヶ月）	聖路加国際病院 麻酔科（9ヶ月） ニューハートワタナベ国際病院 心臓麻酔研修（3ヶ月）
B	聖路加国際病院　麻酔科	東京女子医科大学（6ヶ月） 東京都立小児医療センター（6ヶ月）	聖路加国際病院 集中治療科（1年）	聖路加国際病院 麻酔科（9ヶ月） 順天堂大学ペインクリニック研修（3ヶ月）
C	聖路加国際病院　麻酔科（6ヶ月） 東京都立小児医療センター（6ヶ月）	東京女子医科大学（6ヶ月） 聖路加国際病院麻酔科（6ヶ月）	聖路加国際病院 麻酔科（6ヶ月） 順天堂大学麻酔科 産科麻酔研修（3ヶ月） ペインクリニック（3ヶ月）	聖路加国際病院 麻酔科

週間予定表

聖路加国際病院の例

	月	火	水	木	金	土	日
午前	手術室	手術室	明け休み	手術室	手術室	休み	休み
午後	手術室	手術室	明け休み	手術室	手術室	休み	休み
当直		当直					

交代で月に2回程度土曜日もしくは日曜日の日勤及び週一回以下の当直（当直翌日は休み）を行う。
ローテーション先の勤務体制についてはローテーション先の規定による。

2. 研修施設の指導体制

専門研修基幹施設

聖路加国際病院（麻酔科認定病院番号：249）

研修実施責任者：阿部　世紀
日本麻酔科学会指導医・厚生労働省認定臨床研修指導医資格：
専門研修指導医:阿部　世紀　（麻酔、小児麻酔）
藤田　信子（麻酔、心臓麻酔、産科麻酔、ペインクリニック）
林　督人（麻酔、区域麻酔、産科麻酔、ペインクリニック）
佐久間　麻里（麻酔、救急）
林　怜史　（麻酔、心臓麻酔、ICU）
篠田　麻衣子（麻酔、区域麻酔）
早坂　知子（麻酔）
宮坂　清之　（麻酔、小児麻酔、シミュレーション教育）
小山　杏奈　（麻酔、ペインクリニック、産科麻酔）
専門医：　中張　裕史　（麻酔、心臓麻酔、小児麻酔）
城本　菜那　（麻酔、心臓麻酔）
坂野　彩　（麻酔、心臓麻酔）
井上　真由子　（麻酔、心臓麻酔）
片倉　友美　（麻酔、産科麻酔）
吉武　朱里　（麻酔、産科麻酔）
飯塚　雄介　（麻酔）

当院の手術室は15室あり、心臓外科、小児外科、胸部外科、腹部外科、脳神経外科、無痛分娩、また先端医療（TAVI、Mitralclip、Da Vinci手術（泌尿器、婦人科、心臓外科）など）も含めた、幅広い症例が経験できる。
挿管・硬膜外カテーテル留置・中心静脈カテーテル留置、神経ブロックなど、様々な手技を習得し、合併症のある症例の麻酔も上級医の指導のもと独立して担当できます。心臓血管麻酔・産科麻酔など、将来サブスペシャリティー領域へ進む足がかりとなるトレーニングが受けられる

専門研修連携施設A

東京女子医科大学病院

研修プログラム統括責任者：黒川　智（麻酔）

専門研修指導医：
黒川　智(麻酔)
尾崎　恭子(麻酔)
鈴木　康之(麻酔)
笹川　智貴(麻酔，ペインクリニック)
横川　すみれ(麻酔)
濱田　啓子(麻酔)
庄司　詩保子(麻酔，ペインクリニック)
土井　健司(麻酔)
石川　高(麻酔)
古井　郁恵(麻酔)
山本　偉(麻酔)
後藤　俊作(麻酔)
小嶋　宏幸(麻酔)
武石　健太(麻酔)
中澤　莉沙(麻酔)
黒田　真由美(麻酔)
加賀屋　菜々(麻酔)
鈴木　真也(麻酔)
大角　香穂（麻酔）

認定病院番号：32
特徴：豊富な症例数を背景として包括的な麻酔研修・ペインクリニック・緩和ケアの研修も可能です．心臓麻酔研修は特に力を入れており，心臓麻酔専門医の取得も可能です．多種の臓器移植（心臓・腎臓）や合併症（先天性心疾患等）妊娠の管理，エコーガイド下ブロック麻酔研修など様々なスペシャリティに対応します．

奈良県立医科大学附属病院　　研修実施責任者：川口　昌彦

1965 年　麻酔科学会認定病院
麻酔科認定病院番号：51 号

専門研修指導医（17 名）

川口　昌彦	渡邉　恵介（ペインクリニック）
惠川　淳二（集中治療）	林　　浩伸
内藤　祐介	西和田　忠
田中　暢洋	藤原　亜紀

位田　みつる　　阿部　龍一
野村　泰充　　園部　奨太
植村　景子　　甲谷　太一
吉村　季恵　　紺田　眞規子
松浦 秀記
麻酔科専門医（11 名）
小川　裕貴　　大井　彩子
川瀬 小百合　　奥田　千愛
鈴鹿　隆教　　西井　世良　　坂本悠巨　　松本　真理子
城戸　悦子　　山本　由美子
大前　あずさ

教室のモットーは、“個性重視”、“時代にあった新たな挑戦”そして“良好なチームワーク”です。仲良く、心地よく、喜びや充実感を得られればと考えています。手術麻酔だけでなく、集中治療、ペインクリニック、緩和医療をバランスよく研修することができます。手術麻酔では、心臓血管外科麻酔、小児麻酔、産科麻酔、脳外科麻酔、胸部外科麻酔科に加え、大学病院として先端的な医療や重症例を経験できます。小児心臓外科麻酔、新生児手術、無痛分娩も経験できます。周術期管理医としての幅広い知識も身に着けていただけます。麻酔専門医だけでなく、集中治療、ペインクリニック、心臓血管麻酔、緩和ケアなどのサブスペシャリティーの専門医の取得、研究のサポートさせていただきます。

<u>東京女子医科大学附属足立医療センター</u>

研修プログラム統括責任者：小森万希子
専門研修指導医：小森万希子（麻酔，ペインクリニック、集中治療）
市川順子（麻酔、心臓麻酔）
小高光晴（麻酔，心臓麻酔、集中治療，ペインクリニック）
西山圭子（麻酔，集中治療）
専門医　：　向山瑶子（麻酔）
認定病院番号：61

特徴：多くの重症例を含む麻酔症例を経験でき、ペイン，集中治療、心臓麻酔、小児麻酔、緩和ケアのローテーションが可能、神経ブロックの症例経験も豊富。2022年1月から新病院に移転しました。最新の設備で益々研修体制を充実させます。

<u>国立成育医療研究センター</u>

研修実施責任者：糟谷　周吾
専門研修指導医：糟谷　周吾（小児麻酔）
大原　玲子（産科麻酔）
馬場　千晶（小児麻酔）
蜷川　純（小児麻酔）
山下　陽子（産科麻酔）
古田　真知子（小児麻酔）
松永　渉（産科麻酔）
浦中　誠（小児麻酔）
橋谷　舞（小児麻酔）
阿部　真友子（産科麻酔）
伊集院　亜梨紗（産科麻酔）
阿部　まり子（小児麻酔）
壷井　薫（小児麻酔）
永田　沙也（小児麻酔）
久米　澄子（産科麻酔）
河村　彰久（小児麻酔）
認定病院番号：87
特徴：
・国内最大の小児・周産期施設であり、胎児、新生児、小児、産科麻酔（無痛分娩管理を含む）の周術期管理を習得できる。
・国内最大の小児集中治療施設を有し、小児救急疾患・重症疾患の麻酔・集中治療管理を習得できる。
・小児の肝臓移植、腎移植、小腸移植、心臓移植の周術期管理を習得できる。
・小児がんセンター、緩和ケア科があり、小児緩和医療を経験できる。
・臨床研究センターによる臨床研究サポート体制があり研究環境が整っている。

昭和大学病院

研修実施責任者：大江　克憲
専門研修指導医：大江　克憲（小児心臓麻酔）
加藤　里絵（産科麻酔・手術麻酔）
小谷　透（集中治療）
米良　仁志（ペインクリニック）
尾頭　希代子（手術麻酔・心臓麻酔）
細川　幸希（産科麻酔・手術麻酔）
小林　玲音（ペインクリニック・手術麻酔）

石田　裕介（神経麻酔・集中治療）
五十嵐　友美（集中治療）
専門医：髙橋　有里恵（手術麻酔）
岡崎　晴子（手術麻酔）
五反田　倫子（産科麻酔・手術麻酔）
佐々木　友美（手術麻酔）

麻酔科認定病院番号：33

特徴：手術症例が豊富で専門医取得に必要な特殊症例が当施設で研修できます。食道手術、肝臓手術、呼吸器外科手術などの麻酔管理を十分に経験でき、心臓血管外科も成人と小児の両方を数多く行っています。手術麻酔に加えてペインクリニック、無痛分娩（産科麻酔）、集中治療、緩和医療などのサブスペシャルティの研修も可能です。多職種による術前外来も開設しており、専門医が習得すべき周術期管理をバランス良く学べます。

順天堂大学医学部附属浦安病院

研修実施責任者：髙橋伸二

専門研修指導医：

高橋 伸二 （麻酔、集中治療、ペインクリニック）

神山 洋一郎 （麻酔、集中治療、ペインクリニック）

大和田 哲郎 （麻酔、心臓麻酔）

岡田 尚子 （麻酔、産科麻酔）

森 悠 （麻酔、小児麻酔）

吉松 文 （麻酔）

保利 直助 （麻酔）

平本 芳行 （麻酔、集中治療、救急医学）

麻酔専門医：

小松 茜 （麻酔）

麻酔科認定病院番号：342

特徴：手術麻酔全般のほか、ペインクリニック、無痛分娩、をローテーションなく研修可能である。特に、産科、小児外科の症例が多い。初期研修医レジデントと共にレジデントレクチャー、シミュレーショントレーニングがうけられる

聖隷浜松病院

研修プログラム統括責任者：鳥羽好恵
専門研修指導医：鳥羽好恵（麻酔）
小倉冨美子（麻酔）
鈴木清由（麻酔）
奥井悠介（麻酔）
池上宏美（麻酔）
近藤聡子（麻酔）
大谷十茂太（麻酔）
日比野世光（麻酔）
林伶奈（麻酔）
林美帆（麻酔）
菊池高史（麻酔）

認定病院番号;233
特徴：心臓血管外科麻酔、周産期麻酔を含め、各分野において新生児から成人の様々な手術麻酔を経験可能。
心臓血管麻酔専門研修医認定施設、集中治療学会専門研修施設、日本緩和医療学会認定研修施設。

社会福祉法人恩恵財団済生会横浜市東部病院

研修プログラム統括責任者：佐藤智行
専門研修指導医：佐藤智行（麻酔，集中治療）
谷口英喜（周術期管理，麻酔）
高橋宏行（麻酔，集中治療）
上田朝美（麻酔，集中治療）
斎藤郁恵（麻酔）
秋山容平（麻酔，心臓麻酔）
冨田真晴（麻酔）
三浦梢（麻酔）

佐藤貴紀（麻酔，集中治療）
鎌田高彰（麻酔，周術期管理）
玉井謙次（麻酔，集中治療）
竹郷笑子（麻酔，集中治療）
浅見優（麻酔，集中治療）

専門医： 中山博介（麻酔）
竹田渓輔（麻酔）
田中敬大（麻酔，区域麻酔）
佐藤雄生（麻酔，区域麻酔）
池田敏明（麻酔，集中治療）
倉田早織（麻酔，救急）
稲垣里穂（麻酔）

麻酔科認定病院番号　1315
特徴：済生会横浜市東部病院は平成 19 年 3 月に開院し、地域に根ざした横浜市の中核病院として、そして済生会の病院として、救命救急センター・集中治療センターなどを中心とした急性期医療および種々の高度専門医療を中心に提供する病院である。また、急性期病院であるとともに、ハード救急も担う精神科、重症心身障害児（者）施設も併設されている。また、「より質の高い医療の提供」に加え「優秀な医療人材の育成」も重要な使命と考え、研修医、専門医の育成にあたっており、医師、すべての職員が、充実感をもって働くことができる職場環境の整備にも積極的に取り組んでいる。

専門研修連携施設 B

順天堂大学医学部附属順天堂医院（以下，順天堂医院）
研修実施責任者：川越いづみ
専門研修指導医：川越いづみ（呼吸器外科麻酔・区域麻酔）
林田眞和（心臓血管外科麻酔）
西村欣也（小児麻酔）
井関雅子（ペインクリニック、緩和ケア）
石川晴士（胸部外科麻酔・術前外来）
三高千惠子（集中治療）
長島道生（集中治療）
竹内和世（麻酔全般・小児麻酔）

原　厚子（脳神経外科麻酔）
工藤　治（麻酔全般）
岩田志保子（麻酔全般・心臓血管外科麻酔）
掛水真帆（麻酔全般・心臓血管外科麻酔）
菅澤佑介（麻酔全般）
尾堂公彦（麻酔全般・心臓血管外科麻酔）
河邉千佳（麻酔全般・小児麻酔）
河内山宰（麻酔全般）
福田征孝（麻酔全般）
安藤　望（麻酔全般）
須賀芳文（産科麻酔）
門倉ゆみ子（産科麻酔）
千葉聡子（ペインクリニック）
山田恵子（ペインクリニック）
河合愛子（ペインクリニック）
濱岡早枝子（ペインクリニック）
川上桃子（ペインクリニック）

専門医：林　愛（麻酔全般）
櫻谷初奈（麻酔全般）
山口　愛（麻酔全般）
草野有佳里（麻酔全般）
藤野隆史（麻酔全般）
塚田里奈（麻酔全般）
伊東由圭（麻酔全般）
後藤良太（麻酔全般）
宇田川梨子（麻酔全般）
桃井千恵（麻酔全般）
後藤友理（麻酔全般）
舘山亜弥（麻酔全般）
河内　順（麻酔全般）
箕浦真奈美（産科麻酔）
岸井　絢（麻酔全般）
金子綾香（麻酔全般）
結束さやか（麻酔全般）

麻酔科認定病院番号　12

特徴：各診療科の手術数が多く最先端医療の導入にも積極的であるため、豊富な麻酔症例を経験でき、各サブスペシャリティーの指導陣も充実している。ペインクリニック、緩和ケア、集中治療、産科麻酔の長期・短期のローテーションも可能である。多職種で構成される包括的な術前外来も整備され、麻酔安全面へ大きく寄与している。

信州大学医学部附属病院

研修実施責任者：川真田　樹人

専門研修指導医：川真田　樹人（麻酔、ペインクリニック）
間宮　敬子（緩和医療、ペインクリニック）
石田　高志（麻酔）
清水　彩里（麻酔、集中治療）
布施谷　仁志（麻酔、ペインクリニック）
石田　公美子（麻酔）
浦澤　方聡（麻酔、ペインクリニック）
伊藤　真理子（麻酔）
渡邉　奈津子（麻酔）
丸山　友紀（麻酔、心臓血管外科麻酔）

専門医：田中　竜介（麻酔、神経麻酔）
村上　徹（麻酔、心臓血管外科麻酔）
山本　兼二（麻酔、ペインクリニック）
新井　成明（麻酔、心臓血管外科麻酔）
蜜澤　邦洋（麻酔）
飯田　圭輔（麻酔）
笠原　智貴（麻酔、心臓血管外科麻酔）
大場　衣梨子（麻酔）
山田　利恵子（麻酔）
後藤　咲耶子（麻酔）
田中　成明（麻酔）
竹腰　正輝（麻酔）

麻酔科認定施設番号：31

特徴：集中治療、ペインクリニック、緩和医療のローテーション可能

Awake surgeryの麻酔、肝移植の麻酔などを修練可能。胸部大血管手術における神経機能モニタリングなどを行っている。

千葉大学医学部附属病院

研修プログラム統括責任者：長谷川麻衣子

専門研修指導医：長谷川麻衣子（麻酔,緩和ケア）
田口奈津子（麻酔,緩和ケア,ペインクリニック）
鐘野弘洋（麻酔,緩和ケア,ペインクリニック）
孫　慶淑（麻酔,心臓麻酔）
奥山めぐみ（麻酔,心臓麻酔）
石橋克彦（麻酔）
山岸頌子（麻酔）
林田泰一郎（麻酔）
髙井啓有（麻酔）

専門医：山田高之（麻酔,心臓麻酔）
泰地沙季（麻酔,心臓麻酔）
山地芳弘（麻酔,心臓麻酔）
中尾史織（麻酔）
鈴木明加（麻酔）
古宇田絢子（麻酔）
神山瑞恵（麻酔）
橋田真由美（麻酔）
宮田結奈（麻酔）
新井宗晃（麻酔）
浮谷友悠（麻酔）
内野慶次郎（麻酔）
澤田雅世（麻酔）
柴原美緒（麻酔）
髙橋周平（麻酔）
藤澤美和子（麻酔）
山田ことの（麻酔）
横田　菫（麻酔）

研修委員会認定病院番号　第37番取得

特徴：大学病院として一般病院では経験できない最先端手術、侵襲の大きな手術や重篤な合併症を持つ患者さんの麻酔管理がほとんどで、臨床医としての実力をつけるには十分な症例が経験できる。心臓麻酔や小児麻酔、産科麻酔などの特殊麻酔も専門施設以上の研修が可能である。HCU での術後患者の全身管理、疼痛管理を通して、より

効果的な術前・術中・術後管理の研修を学ぶことができる。さらに、当教室の緩和ケア病棟で全人的に患者と向き合い、症状治療の重要性を学ぶこともできる。また、大学院生として臨床研究を行いながら麻酔科研修ができるのも大きな特徴である。研修期間中に手術麻酔，ペインクリニック，緩和医療の充分な臨床経験を積む．通常の全身麻酔・硬膜外麻酔・脊髄くも膜下麻酔・神経ブロックの症例経験に加え，下記の特殊麻酔の担当医として本プログラム割り当て件数内で可能な限り経験する

<u>都立多摩総合医療センター（以下，多摩総合医療センター）</u>

研修実施責任者：山本　博俊

専門研修指導医：山本　博俊（麻酔，心臓血管麻酔）
貴家　基（麻酔）
阿部　修治（麻酔，ペインクリニック）
田辺　瀬良美（麻酔，産科麻酔）
髙田　眞紀子（麻酔，心臓血管麻酔）
渡邉　弘道（麻酔，神経ブロック）
松原　珠美（麻酔）
三井　裕介（麻酔）
本田　亜季（麻酔）
稲吉　梨絵（麻酔）
滝島　千尋（麻酔，ペインクリニック）
小松　郁子（麻酔，神経ブロック，心臓血管麻酔）

専門医：　北條　貴也（麻酔）
江村　彩（麻酔）
土屋　愛依（麻酔）

認定施設番号：89

特徴：多摩地域における唯一の総合的な医療機能を持つ都立病院として、11の重点医療を定めて高度専門医療を実施している。その中でも救急医療、がん医療、周産期医療を三本柱として重視している。多数の外科系診療科がまんべんなくそろっており、症例は豊富でバラエティに富んでいる。緊急手術特に産科の緊急手術が多いのが特徴である。

<u>社会医療法人敬愛会　中頭（なかがみ）病院（以下，中頭病院）</u>

研修実施責任者：上川務恵

専門研修指導医　上川務恵（麻酔）
花城亜子（麻酔）
高橋和成（麻酔）

安部真教（麻酔、ペインクリニック）
専門医：　　平田友里（麻酔）

認定病院番号：1007
特徴：当院は沖縄県中部にある、病床数355床の急性期総合病院です。診療科は外科、整形外科、呼吸器外科、脳外科、心臓外科のほか、形成外科、耳鼻科などがあり、経験できる症例も多岐にわたります。また、後期研修に必要な症例は全て経験することができます。救急・集中治療部門も充実しているので、研修中にローテーションすることも可能です。2022度はペインクリニック外来を開設し慢性疼痛の患者の診療を行っています。

東京都立小児総合医療センター
研修実施責任者：西部　伸一
専門研修指導医：西部　伸一　　（小児麻酔）
山本　信一　　（小児麻酔）
北村　英恵　　（小児麻酔）
簑島　梨恵　　（小児麻酔）
伊藤　紘子　　（小児麻酔）
箱根　雅子　　（小児麻酔）
佐藤　慎　　（小児麻酔）

認定病院番号：1468

特徴：地域における小児医療の中心施設であり、治療が困難な高度専門医療、救命救急医療、こころの診療を提供している。年間麻酔管理件数が 4000 件と症例数が豊富で、一般的な小児麻酔のトレーニングに加え、新生児麻酔、心臓麻酔、気管形成術の麻酔などの研修が行える。また、積極的に区域麻酔を実施しており、超音波エコーガイド下神経ブロックを指導する体制も整っている。2019 年度より心臓血管麻酔専門医認定施設となっている。

公益財団法人　榊原記念財団　附属　榊原記念病院
研修実施責任者：清水　淳（麻酔一般、心臓麻酔）
専門研修指導医：一瀬　麻紀　（麻酔一般、救急医療）
古市　結富子　（麻酔一般、心臓麻酔、集中治療）

認定病院番号　第 1441 番

特徴:急性期医療を中心とした，あらゆる年齢層を対象とした循環器疾患の専門施設である． 小児先天性心疾患を含む開心術だけでなく， 最先端のカテーテル治療の周術期管理を豊富に経験できる． また他科・他職種間の垣根が低く， カンファランスや実地臨床を通じて幅広い知識を得ることができる．地域医療支援病院である

ニューハート・ワタナベ国際病院

研修プログラム統括責任者：宮田和人（麻酔・集中治療）

専門研修指導医: 宮田和人（麻酔・集中治療） ）

重松明香（麻酔・集中治療） ）

17 宮山直樹（麻酔・集中治療） ）

認定病院番号：1727

特徴 : 成人心臓手術に特化した病院で，ロボット支援下心臓手術を行っている日本でも

数少ない施設.

麻酔管理症例数 ：631 例

国立がん研究センター東病院

研修プログラム統括責任者：橋本　学

専門研修指導医: 橋本　学（麻酔, 小児麻酔）

大下　愛子（麻酔）

板倉　紗也子（麻酔，ペインクリニック）

認定病院番号　638

特徴：がん診療連携拠点病院であることから、全国から集まるがん患者の診療に携わる。このため、いわゆるメジャー手術が多い。特に、分離肺換気を必要とする呼吸器外科手術、食道手術は全国でも屈指の症例数である。また、頭頸部外科を有するため、特殊な挿管管理が必要な症例も豊富である。

社会医療法人社団十全会　心臓病センター榊原病院

研修実施責任者：大西佳彦

専門研修指導医：大西佳彦（心臓血管麻酔）
石井智子（心臓血管麻酔）

麻酔科認定病院番号：1142
特徴： 心臓外科領域の麻酔が主である。ＴＡＶＩ、ＭＩＣＳも症例数が多い。

3. 専攻医の採用と問い合わせ先

①. 採用方法

専攻医に応募する者は，日本専門医機構に定められた方法により，期限までに（2023年９月ごろを予定）志望の研修プログラムに応募する．

②. 問い合わせ先

本研修プログラムへの問い合わせは、聖路加国際病院麻酔科専門研修プログラムwebsite、電話、e-mail、郵送のいずれの方法でも可能である。
聖路加国際病院　麻酔科　部長　阿部　世紀
東京都　中央区　明石町　9-1
TEL 03-3541-5151
E-mail seabe@luke.ac.jp
URL http://hospital.luke.ac.jp
Website
http://hospital.luke.ac.jp/guide/62_anesthesiology/index.html#overview-content

4. 麻酔科医資格取得のために研修中に修めるべき知識・技能・態度について

① 専門研修で得られる成果（アウトカム）

麻酔科領域の専門医を目指す専攻医は，4年間の専門研修を修了することで，安全で質の高い周術期医療およびその関連分野の診療を実践し，国民の健康と福祉の増進に寄与することができるようになる．具体的には，専攻医は専門研修を通じて下記の4つの資質を修得した医師となる．

１）十分な麻酔科領域，および麻酔科関連領域の専門知識と技能
２）刻々と変わる臨床現場における，適切な臨床的判断能力，問題解決能力
３）医の倫理に配慮し，診療を行う上での適切な態度，習慣
４）常に進歩する医療・医学に則して，生涯を通じて研鑽を継続する向上心

② 麻酔科専門研修の到達目標

国民に安全な周術期医療を提供できる能力を十分に備えるために，研修期間中に別途資料「**麻酔科専攻医研修マニュアル**」に定められた専門知識，専門技能，学問的姿勢，医師としての倫理性と社会性に関する到達目標を達成する．

③　麻酔科専門研修の経験目標

研修期間中に専門医としての十分な知識，技能，態度を備えるために，別途資料「**麻酔科専攻医研修マニュアル**」に定められた経験すべき疾患・病態，経験すべき診療・検査，経験すべき麻酔症例，学術活動の経験目標を達成する．

このうちの経験症例に関して，原則として研修プログラム外の施設での経験症例は算定できないが，地域医療の維持など特別の目的がある場合に限り，研修プログラム管理委員会が認めた認定病院において卒後臨床研修期間に経験した症例のうち，専門研修指導医が指導した症例に限っては，専門研修の経験症例数として数えることができる．

5.　専門研修方法

別途資料「**麻酔科専攻医研修マニュアル**」に定められた１）臨床現場での学習，２）臨床現場を離れた学習，３）自己学習により，専門医としてふさわしい水準の知識，技能，態度を修得する．

6.　専門研修中の年次毎の知識・技能・態度の修練プロセス

専攻医は研修カリキュラムに沿って，下記のように専門研修の年次毎の知識・技能・態度の到達目標を達成する．

専門研修１年目

手術麻酔に必要な基本的な手技と専門知識を修得し，ASA１～２度の患者の通常の定時手術に対して，指導医の指導の元，安全に周術期管理を行うことができる．

専門研修２年目

1 年目で修得した技能，知識をさらに発展させ，全身状態の悪い ASA３度の患者の周術期管理や ASA１～２度の緊急手術の周術期管理を，指導医の指導のもと，安全に行うことができる．

専門研修 3 年目

心臓外科手術，胸部外科手術，脳神経外科手術，帝王切開手術，小児手術などを経験し，さまざまな特殊症例の周術期管理を指導医のもと，安全に行うことができる．ま

た，ペインクリニック，集中治療，救急医療など関連領域の臨床に携わり，知識・技能を修得する．

専門研修 4 年目
3 年目の経験をさらに発展させ，さまざまな症例の周術期管理を安全に行うことができる．基本的にトラブルのない症例は一人で周術期管理ができるが，難易度の高い症例，緊急時などは適切に上級医をコールして，患者の安全を守ることができる．

7. 専門研修の評価（自己評価と他者評価）

① 形成的評価

- 研修実績記録：専攻医は毎研修年次末に，専攻医研修実績記録フォーマットを用いて自らの研修実績を記録する．研修実績記録は各施設の専門研修指導医に渡される．
- 専門研修指導医による評価とフィードバック：研修実績記録に基づき，専門研修指導医は各専攻医の年次ごとの知識・技能・適切な態度の修得状況を形成的評価し，研修実績および到達度評価表，指導記録フォーマットによるフィードバックを行う．研修プログラム管理委員会は，各施設における全専攻医の評価を年次ごとに集計し，専攻医の次年次以降の研修内容に反映させる．

② 総括的評価

研修プログラム管理委員会において，専門研修４年次の最終月に，専攻医研修実績フォーマット，研修実績および到達度評価表，指導記録フォーマットをもとに，研修カリキュラムに示されている評価項目と評価基準に基づいて，各専攻医が専門医にふさわしい①専門知識，②専門技能，③医師として備えるべき学問的姿勢，倫理性，社会性，適性等を修得したかを総合的に評価し，専門研修プログラムを修了するのに相応しい水準に達しているかを判定する．

8. 専門研修プログラムの修了要件

各専攻医が研修カリキュラムに定めた研修期間、到達目標，経験すべき症例数を達成し，知識，技能，態度が専門医にふさわしい水準にあるかどうかが修了要件である．各施設の研修実施責任者が集まる研修プログラム管理委員会において，研修期間中に行われた形成的評価，総括的評価を元に修了判定が行われる．

9. 専攻医による専門研修指導医および研修プログラムに対する評価

専攻医は，毎年次末に専門研修指導医および研修プログラムに対する評価を行い，研修プログラム管理委員会に提出する．評価を行ったことで，専攻医が不利益を被らない

ように，研修プログラム統括責任者は，専攻医個人を特定できないような配慮を行う義務がある．

研修プログラム統括管理者は，この評価に基づいて，すべての所属する専攻医に対する適切な研修を担保するために，自律的に研修プログラムの改善を行う義務を有する．

10. 専門研修の休止・中断，研修プログラムの移動

① 専門研修の休止

- 専攻医本人の申し出に基づき，研修プログラム管理委員会が判断を行う．
- 出産あるいは疾病などに伴う６ヶ月以内の休止は1回までは研修期間に含まれる．
- 妊娠・出産・育児・介護・長期療養・留学・大学院進学など正当な理由がある場合は，連続して 2 年迄休止を認めることとする．休止期間は研修期間に含まれない．研修プログラムの休止回数に制限はなく，休止期間が連続して 2 年を越えていなければ，それまでの研修期間はすべて認められ，通算して 4 年の研修期間を満たせばプログラムを修了したものとみなす．
- 2 年を越えて研修プログラムを休止した場合は，それまでの研修期間は認められない．ただし，地域枠コースを卒業し医師免許を取得した者については，卒後に課せられた義務を果たすために特例扱いとし 2 年以上の休止を認める．

② 専門研修の中断

- 専攻医が専門研修を中断する場合は，研修プログラム管理委員会を通じて日本専門医機構の麻酔科領域研修委員会へ通知をする．
- 専門研修の中断については，専攻医が臨床研修を継続することが困難であると判断した場合，研修プログラム管理委員会から専攻医に対し専門研修の中断を勧告できる．

③ 研修プログラムの移動

- 専攻医は，やむを得ない場合，研修期間中に研修プログラムを移動することができる．その際は移動元，移動先双方の研修プログラム管理委員会を通じて，日本専門医機構の麻酔科領域研修委員会の承認を得る必要がある．麻酔科領域研修委員会は移動をしても当該専攻医が到達目標の達成が見込まれる場合にのみ移動を認める．

11. 地域医療への対応

本研修プログラムの連携施設には，地域医療の中核病院として都立多摩総合医療センター（多摩市)、中頭病院（沖縄市）が連携施設に入っている．医療資源の少ない地域においても安全な手術の施行に際し，適切な知識と技量に裏付けられた麻酔診療の実

施は必要不可欠であるため，専攻医は，大病院だけでなく，地域での中小規模の研修連携施設においても一定の期間は麻酔研修を行い，当該地域における麻酔診療のニーズを理解する.

12. 専攻医の就業環境の整備機能（労務管理）

研修期間中に常勤として在籍する研修施設の就業規則に基づき就業することとなります. 専攻医の就業環境に関して，各研修施設は労働基準法や医療法を順守することを原則とします. プログラム統括責任者および各施設の研修責任者は専攻医の適切な労働環境（設備，労働時間，当直回数，勤務条件，給与なども含む）の整備に努めるとともに、心身の健康維持に配慮します.

年次評価を行う際，専攻医および専門研修指導医は研修施設に対する評価（Evaluation）も行い，その内容を専門研修プログラム管理委員会に報告する． 就業環境に改善が必要であると判断した場合には、当該施設の施設長、研修責任者に文書で通達・指導します。